

- 註1 『総社市埋蔵文化財調査年報』12 総社市教育委員会 2003年
『総社市埋蔵文化財調査年報』13 総社市教育委員会 2004年
『総社市埋蔵文化財調査年報』14 総社市教育委員会 2005年
総社市埋蔵文化財発掘調査報告18『古代山城 鬼ノ城』 2005年

第2節 調査の概要

第1水門貯水池は、総社市奥坂1763-1に所在し、貯水池の基礎資料を得るために発掘調査を実施した。事前に下草刈り清掃を行い周辺地形の観察を行ったところ、貯水池は瓢箪形を呈し、池の北東方向が相対的に低位で、第1水門方面から入り込んだ谷部と接していた。また、池から谷頭までには細長い流路が看取できた。

発掘調査はまず貯水池の長軸側にトレンチを1本設定し、堆積状況や規模の概要を調べることにした。トレンチ内に貯水池の両肩を検出し、底部が平坦に削平されている状況を確認したため、貯水池の形状に合わせて順次、拡張を行った。調査の結果、貯水池の東半には平面がU字形となる池の肩を検出し、底部の状況が面的に確認できた。池の規模は長さ12.5m、幅4m以上、深さ約1mを測り、鬼ノ城の貯水池の中では最も小さい。

土塁状遺構は総社市奥坂1762-2に所在し、城外である鬼城山北側の山裾に位置する。岩屋方面から流走する血吸川の支流は当該箇所でも合流するが、この合流地点には川を挟んだ南北の両岸に山塊が迫り、狭隘な渓谷が間近に迫っている。両岸の山裾には土塁状遺構が南北に2ヵ所存在していた。

特に南側（鬼城山側）の遺構は、分断されて断面が三角形となり、南西側の山裾に向かって長さ20mも延びている状況が確認できる。こうした遺構の性格を追求するため、周辺地形の詳細測量と断面観察を主としてトレンチを1本設定した。

調査の結果、2ヵ所に存在する土塁状遺構が一連の遺構であることが確認でき、トレンチでは水平方向に突き固められた盛土を検出した事により、土木構造物であることが改めて明らかになった。し



第10図版 第1水門貯水池（下草刈り後）

かしながら、遺構の時期や性格については確証を得るに至っていない。

第3節 調査の組織

1. 鬼城山整備委員会

- 委員長 坪井清足（元興寺文化財研究所所長）
委員 水内昌康（元岡山県文化財保護審議委員）
委員 高橋 護（元ノートルダム清心女子大学教授）
委員 狩野 久（元京都橘女子大学教授）
委員 濱島正士（別府大学教授）
委員 河本 清（くらしき作陽大学）
委員 葛原克人（ノートルダム清心女子大学教授）
委員 高瀬要一（独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 遺跡研究室長）
委員 稲田孝司（岡山大学教授）

諸先生方には、寒暑ご多忙にもかかわらず、現地で積極的なご指導ご助言をいただき、発掘調査そして整備計画の策定・実施についてご検討ご提言など多方面にわたって多大なご支援をいただいた。幾ばくかでも成果があげられたとすれば、それは諸先生方のご指導の賜物であり、銘記して深甚なる謝意を表します。

また、文化庁、岡山県、岡山県教育委員会など関係機関各位からもご指導、ご助言をいただいた。深く謝意を表します。

2. 総社市教育委員会

- 教育長 桑田交三
教育次長 平田充宏
参事兼文化課長 加藤信二
課長補佐 谷山雅彦（調整担当）
主事 笹田健一（庶務担当）
主事 松尾洋平（調査担当）
総社市埋蔵文化財学習の館
館長 村上幸雄（調査担当）
臨時職員 近藤雅子、田中富子

〔平成6年度・平成16年度発掘調査協力者〕（順不同、敬称略）

石尾昌一、池上啓一、石原広昭、栢野 甲、栢野伸夫、牧野勘一、牧野 保、牧野 勉、山田 実
横田武夫、横田昌一、横田義治、横田茂夫、赤木克己、難波多騏正、石井多米穂、安原昌明
石堂郁子、牧野 彌、牧野正子、横田勝子、横田富美子、山田富子、赤木浪江、赤木速子
上記の方々には厳寒、酷暑または悪天候のなか、発掘調査に従事していただき心から厚くお礼申し上げます。